

なきごえ12

DEC.

2000



CONTENTS

New Face	カリフォルニアアシカ	油家謙二	②
	動物とわたし	小笠原 嵩	③
カバーウォッチング	エボシドリ	長瀬健二郎	③
	天王寺動物園の20世紀	宮下 実	④
	-85年の歴史を振り返って-		⑥
グラフZOO	20世紀を生きた天王寺の動物たち	宮下 実	⑧
	公園花だより 春の七草	森岡 伸晃	⑩
	ZOO DIARY	高見 一利	⑪
	ZOO INFO	松岡 秀和	



カリフォルニアアシカ

(アザラシ目 アシカ科)

アシカは繁殖期になると、オス1頭に複数のメスからなる「ハーレム」を作って生活します。当園では以前に住んでいたオスが老衰で死亡したため、新しいオスがやって来ました。まだ子どもですが、早く立派なハーレムを作って欲しいものです。

表紙

Cover Watching

① グリーンイグアナ	西村慶太	⑦ レッサーパンダ	森本委利
② エミュー	長瀬健二郎	⑧ フンボルトペンギン	長瀬健二郎
③ マツカサトカゲ	油家謙二	⑨ カラカラ	中川哲男
④ ベニイロフラミンゴ	長澤英資	⑩ インドホシガメ	長瀬健二郎
⑤ タヌキ	松岡秀和	⑪ カリフォルニアアシカ	大野尊信
⑥ ホオジロカラムリツル	大野尊信	⑫ エボシドリ	長瀬健二郎

ニューフェイス

New Face

① ニューギニアナガクビガメ	西村慶太	⑦ サカツラガン	森本委利/松岡秀和
② アカカンガルー	長瀬健二郎	⑧ フンボルトペンギン	長瀬健二郎
③ クロサイ	油家謙二	⑨ フクロギツネ	森本委利/松岡秀和
④ カバ	長澤英資	⑩ ヒョウモンガメ	長瀬健二郎
⑤ ホオアカトキ	松岡秀和	⑪ ダマジカ(白変種)誕生	沖田紀行
⑥ シシオザル	大野尊信	⑫ カリフォルニアアシカ	油家謙二

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

① 「ぞうさん」と遊んだぞう	増田喜昭	⑦ 鳥に感謝	前田弘寿
② 私はネコ派	森田りえ子	⑧ 南ぬ風人まーちゃん <small>(はいぬかじびとまーちゃん)</small>	山下正雄
③ 里山の動物たち	志賀真理子	⑨ 猫は高周波が嫌い?	阿部慶子
④ あの日に帰りたい	あべ弘士	⑩ 鳥の運命は飼い主次第	市河紀子
⑤ 動物達には発見がいっぱい	麦畑耕生	⑪ 私の出あった生きものたち	島野千鶴子
⑥ 伴侶動物のいる老人ホームの生活	杉山吉秋	⑫ クマゲラを求めて30数年	小笠原 嵩

グラフZOO

① 龍を探せ	西村慶太	⑦ ミレニアム生まれの赤ちゃんたち	竹田正人
② 下北のニホンザル	大野尊信	⑧ サバンナゾーンへのお引越し	高見一利
③ ゾウの鼻の使い方	油家謙二	⑨ 公開直前!アフリカ・サバンナ区草食動物ゾーン	大野尊信
④ クロサイ赤ちゃん誕生	市川久雄	⑩ 第26回サマースクール	松岡秀和
⑤ 南アフリカの動物紀行	中川哲男	⑪ コアラの11年	野口秀高
⑥ サバンナゾーン	高見一利	⑫ 20世紀を生きた天王寺の動物たち	宮下 実

特別寄稿

WorldAnimals&Nature report

- | | | | |
|--|-------|-------------------|------|
| ① ドラゴンと籠 | 中川哲男 | ⑥ トキが舞う日 | 金子良則 |
| ② 里山をつくろうプロジェクトで売り出し中!
~エゾリスの会ってこんなこともやっています~ | 伊藤育子 | ⑦ 北海道のナキウサギ | 大野 聡 |
| ③ アメリカの動物園と環境団体 | 川端裕人 | ⑧ サバンナの思い出(前編) | 内山 晟 |
| ④ 動物がより"幸せ"にくらせるように
~動物園と環境エンリッチメント~ | 落合知美 | ⑨ サバンナの思い出(後編) | 内山 晟 |
| ⑤ コウノトリの郷公園の開園
~コウノトリとの共生をめざして~ | 松島興治郎 | ⑩ 北海道のヒグマ-共存に向けて- | 野間 勉 |
| | | ⑪ 日本のコアラ事情 | 鹿島英祐 |
| | | ⑫ 天王寺動物園の20世紀 | 宮下 実 |

紀行・記録・その他

- | | | | |
|----------------------------------|-------|-------------------------|-----------|
| ① 籠を探せ | 西村慶太 | ⑦ シンガポール動物園を訪問して | 市川久雄 |
| ② 北半島に北限のニホンザルを訪ねる | 大野尊信 | ⑧ 完成したアフリカ・サバンナ区草食動物ゾーン | (前編) 中川哲男 |
| ③ 東南アジアの動物園協会年次総会に出席して | 長瀬健二郎 | ⑨ | (後編) // |
| ④ クロサイの誕生(もう僕飛ぶよ) | 仲谷 登 | ⑩ キリンの引っ越し | 西田俊広 |
| ⑤ WZO第54回世界動物園機構年次総会(南アフリカ)に参加して | 中川哲男 | ⑪ コアラ飼育のこれまでとこれから | 早川 篤 |
| ⑥ ナベヅル紀行 | 高見一利 | | |

連載・その他

- | | | |
|----------------|--------------------------------|------|
| けい太のなんでやねん動物園 | ④ No.4 逃げ場をつくろう(エボシカメレオン) | 西村慶太 |
| | ⑩ No.5 森の妖精ヒルヤモリ | // |
| キーバースアイ | ② ゾウのおはなし | 油家謙二 |
| | ⑥ ゾウのごはん | // |
| | ⑪ ゾウの三角関係 | // |
| ケンちゃんの好きやねん動物園 | ① ペンギン舎を訪ねて | 松葉 健 |
| | ⑦ アフリカ・サバンナ区草食動物ゾーンへの動物たちの引っ越し | // |
| | ⑨ オープンしたアフリカ・サバンナ区草食動物ゾーンを訪ねて | // |
| 公園・花だより | ⑤ No.26 食虫植物 | 森岡伸晃 |
| | ⑫ No.27 春の七草 | // |
| 獣医室から | ③ No.77 野生鳥類の保護 | 竹田正人 |
| | ⑧ No.78 アジアゾウ・ユリ子死す | 高橋雅之 |

ZOO DIARY

- ①~④ 高見一利 坂本 全
⑤~⑫ 高見一利 松岡秀和

お知らせ

松岡秀和

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

小笠原 嵩さん

(秋田大学教育文化学部 自然環境講座教授)



クマゲラを求めて30数年

私が秋田大学に赴任したのが、昭和42年でした。学生運動も一段落し、ふと地元新聞を見たら、「森吉山山麓でクマゲラ繁殖」という記事を見、まさかと思い、新聞社に「掲載の写真を見せて下さい」とお願いした所、写真は紛失したとのこと。その後、しばらくして写真を撮られた地元役場職員の庄司国千代さんから、「こんどは伐採跡地で採食しているクマゲラを見た」というお電話を頂戴した。私はいてもたってもいられなかった。授業や会議があり、すぐには森吉山に行けずいたら、私の学生であった泉祐一君(現在県自然保護課)が、「じゃ僕が行って来る」といい、さっそくバイクで森吉山に向い、翌朝庄司さんにご案内いただき、やはり伐採跡地で採食中のクマゲラを発見し、その撮影にも成功しました。

クマゲラは北海道以北の鳥であり、本州以南での繁殖は認められておりませんでした。そこで私達秋田県野鳥の会のメンバーはひまさえあればクマゲラを求めて森吉山のノロ川地区に日参しました。

早朝、クマゲラが天然ブナ林からブナ伐採

跡地に採食のため飛来することが明らかになって来ました。それが私がクマゲラの調査研究に没頭するきっかけになったのです。

そして、ついに1978年5月25日、野鳥の会のメンバーによって繁殖中(巣内に雛3羽)の巣が本州で初めて発見されました。丁度その頃、私はそれまでの本州のクマゲラの記録を携えて、西ドイツで開催された国際鳥学会に参加後の帰国直後のことでした。

すぐに泉君に電話し、「クマゲラは」と聞いたら、「クマゲラの巣を発見した、すぐ森吉山に行こう」という。私は時差ボケをおし、泉君の車に乗せていただき、その日のうちに、森吉山ノロ川地区に急いだのですが、残念ながら夕方営巣木に着いた時にはもぬけの空であった。その後、何回か通っているうちに、幸いにも親子連れのクマゲラに出会うことが出来ました。その折の感動は今も思い出すことが出来ます。その感動が20数年間、クマゲラを求め続け、天然ブナ林をさまよひ、北海道、ドイツへと足を運ぶことになったのです。

(おがさわら こう)



エボシドリ

Cover Watching
ホトトギス目エボシドリ科 Tauraco persa buffoni

西アフリカの川辺林や森林の林縁部に好んで分布し、主に果実や花、その蕾(つぼみ)などを食べています。ワシントン条約の附属書Ⅱに指定されている希少種です。パッと翼を広げると隠れていた鮮やかな赤がとても美しく、この赤を見ただけで、わざわざ動物園まで来た甲斐(かい)があったと思わせる程です。(撮影・文:長瀬 健二郎)

天王寺動物園の20世紀

TENNOJI ZOO
SINCE 1915

85年の歴史を振り返って

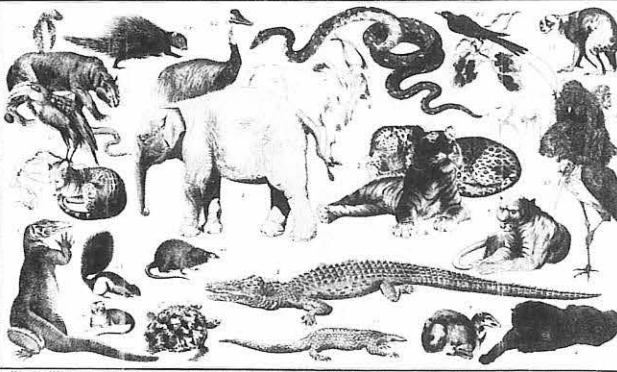
天王寺動物園は1915年(大正4年)に日本で3番目の動物園として開園しました。前身は府立大阪博物場(今の中央区本町橋詰町)にあった附属動物檻(1884年開設)で、1913年、動物檻の廃止決定に伴い大阪市へ動物などが譲渡されることになりました。大阪市はこれに伴い開園前年の1914年9月に着工し、わずか4カ月の短期間で22の動物舎と12の附属施設(門、休憩所、便所、事務所など)を完成させ、翌年の1月1日に開園したのです。

以来、85年間にわたってこの天王寺の地で市民の憩いの場として親しまれてきましたが、新世紀を迎えるにあたり、20世紀に生じた天王寺動物園の足跡を振り返ってみることにしました。動物檻からの歴史も含めて7つの時代に分け、それぞれの時代の特色を述べてみましょう。

創設前期 1884-1914【明治17年-大正3年】 動物園の幕開け、府立大阪博物場附属動物檻の時代

前述したように天王寺動物園の前身、府立大阪博物場附属動物檻が1884年に開設されたその2年前に、日本最初の動物園である上野動物園が東京で開園しました。まさに日本の東西で動物園の幕が上がったわけです。続いて1903年に京都市動物園が開園しましたが、明治から大正の初めにかけては東京、京都、大阪にしか動物園はありませんでした。当時は娯楽的な施設がほとんどなかったこともあって、動物園の人気は非常に高かったようです。附属動物檻も1914年9月に閉鎖されるまでの30年間、大阪市の中心部にあって市民の人

念紀會覽博業動園丹回五第

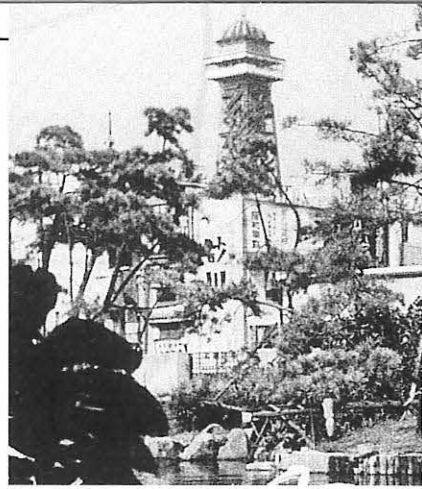


余興動物園で飼育されていた動物の解説図

気を集めていました。

1903年に大阪で開かれた第5回内国勲業博覧会では余興動物園というものが開設され、当時としては実に多くの珍しい動物が集められていたことから、博覧会の催しの中では一番人気があったようです。この余興動物園には1日に平均5、6千人もの入場者があったといわれていますから、動物に対する市民の関心の高さが窺えます。

府立大阪博物場ではこの博覧会閉会后、余興動物園からライオン、トラ、ゾウなど9種の動物を購入し、動物檻の充実を図ります。しかし、1909年に起きた「北の大火」で商品陳列所が焼失したことに伴い、この再建場所を府立大阪博物場内に求めたことから、動物檻の廃止、大阪市への譲渡が決まります。



大正時代の通天閣と天王寺動物園

創設期 1915-1925【大正4年-大正14年】 天王寺の地に大阪市立動物園が開園

第5回内国勲業博覧会の会場跡地は東側17万㎡が天王寺公園として整備が開始され、西側の10万㎡が大阪の新しい娯楽地、新世界として開発されました。動物園は公園西側の新世界と隣接する南北に長い2万6千㎡の敷地に設けられました。この天王寺公園以外にも動物園の候補地はいくつかありましたが、交通、環境などが一番整っているということで、現在の場所が選ばれました。動物園設置を決めた当時の池上市長の談話は、85年たった今でも胸を打つ言葉です。「私は人間に飼育される動物を知っていても、その自然の生態を究めることはできません。子どもに対し、絵本のなかで遊び相手であった動物の夢を、現実に描きだしてやりたいと思います。本町の一角に押し込められた動物を、天王寺という自然に放してやることは、まことにすばらしいことだと思います」。

大阪府から大阪市へはゾウをはじめとして動物181点、書籍57冊、医療器具88点などがすべて無償で譲られました。これ以外にも大阪市は動物を購入し、開園時にはオランウータン、シマハイエナ、ライオン、トラ、タンチョウ、ペリカン、ヒクイドリ、ニシキヘビなど(推定約60種230点ほど)が飼育されていました。

開園時の逸話はなんとといっても動物の引越でしょう。ゾウ以外の動物は牛車や大八車などで運ばれましたが、ゾウは歩かせて移動することになりました。

博物場から動物園までは松屋町筋を南下するのですが、当時の道幅は5.4mという狭いもので、しかもこの道筋には菓子屋やせんべい屋が軒をつらねており、屋間は人通りも多いことから、1914年の10月15日深夜、実行に移されました。



動物追用法会で動物代表として焼香するゾウの団平(大正11年)

この時のアジアゾウのオス団平は、以前にサーカスで調達されていたこともあり、3.3kmの道のりを10時間かけてどうにか動物園へ到着しました。団平の鼻で損傷を受けた家々が相次ぎ、市役所の営繕係が後ろから修理しながら歩いていったという話が残っています。

開園した1915年の有料入園者は57万人、以後89万人、98万人と順調に増加し、1918年には111万人に達しました。この大正の中頃には名古屋と鹿児島に動物園が開設されましたが、日本全国ではまだ5園にすぎませんでした。

発展期 1926-1940【昭和元年-昭和15年】 東洋一を目指した天王寺動物園

入園者の増加とともに敷地面積が狭く混雑するため、昭和に入ると何度か園域が拡張され1935年には6万㎡になりました。これと呼応するかのよう、海外からの珍しい動物の入園ラッシュが始まりました。1926年のグラントシマウマ、1927年のチンパンジー、1928年のマントヒヒなどはいずれも初めてお目見えする動物であり、それら以外にもゴールデンライオンタマリンやウオンバット、アルマジロ、カバ、マンドリル、リカオン、キリン、ホッキョクグマなどが来園し、哺乳類、鳥類、爬虫類だけでも350種1600点を越える飼育動物となり、施設面でも動物の種類数でも日本の頂上に立つ動物園に成長し、まさに戦前の最盛期を迎えました。

この当時、大阪のみならず日本全国の関心を集めたのが、1932年に来園したチンパンジーのリタです。竹馬、自転車はもちろん、フォーク、ナイフを使った食事マナー、食後には紅茶を飲みタバコを一服と、人並み以上のことをこなすので、マスコミが大きく取り上げ、またリタ見たさの入園者がウナギ登り。1933年には開園以来最多の165万人、翌34年には天王寺動物園最多記録ともなる250万人もの入園者がありました。ただ、一部にはチンパンジーの本来の生態とはかけ離れた芸を見せることに批判があったことは忘れてはならない事実です。



全国の人気者リタ(昭和12年)

混乱期 1941-1949【昭和16年-昭和24年】 戦時中の動物の犠牲と終戦後の静物園

1936年の2.26事件を契機に戦争へと傾きだした日本の大勢はもはや止められるものではなく、1941年、太平洋戦争が始まりました。しかし戦争の暗雲を振り払うかのように、動物園に安らぎを求めて来園する人は少なくありませんでした。戦争が進むにつれ、空襲、疎開、そして物資、食糧の不足が始まると、楽しい一時を過ごすことすら許されなくなり、動物園の職員も次々と徴用され、動物の飼育や園内管理は人手不足から維持するのがやっとの状態となってきました。



動物も動員した防空演習

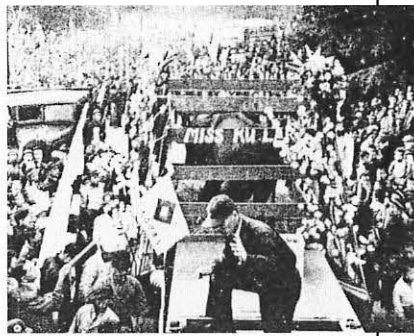
1940年頃からライオンの餌の牛肉とミルクは馬肉、ウサギ肉へと代わり、それさえも毎日給与できずに鶏頭や鯨肉にへと代わりました。タヌキやオオカミなどの餌も馬肉ミンチとイワシを混ぜた雑炊に、草食動物ではサツマイモがジャガイモ、それがオカラやカボチャの種、豆かす、糠(ぬか)、腐りかかったイモなどへと代わりました。一番大変だったのはゾウで、当時2頭のメスのアジアゾウがいたのですが、野菜が入らないために農家でワラをもらったり、草を刈り集めたりする日々が続きました。1日に100kgも食べるゾウの餌を毎日確保することは段々と困難になり、不良な飼料からくる胃腸炎と栄養不良で、1942年1月と3月に相次いで死亡しました。

戦意高揚をはかるために、この頃の新聞は戦争記事で埋め尽くされ、動物の名称も敵性用語の使用禁止ということでペリカンは伽藍鳥にカンガルーは袋鼠にと、日本語への変更が提案されるなどしました。また、人気者のチンパンジーのリタに軍服を着せたり、動物を使つての防空演習なども行われ、動物園も戦争一色で塗りつぶされました。戦局が深まった頃、空襲による猛獣の脱出を懸念し、猛獣処分の決定がされました。1943年9月からライオン、トラ、ヒョウ、クマなど10種26頭の動物が短期間の中で薬殺処分されます。当時の動物園関係者はまさに断腸の思いで手塩にかけた動物の最期を看取りましたが、無念やるかたないでござりました。

1945年、戦争が終わりましたが、主だった動物は生き残っていませんでした。ニワトリやアヒル、ブタなどの家畜・家禽が主体でしたが、一段と厳しくなった食糧不足から死亡する動物が相次ぎました。動物舎は空き家が多く、園内の空き地は飼料確保のための畑となり、市民からは静物園、養鶏園と呼ばれる始末でした。

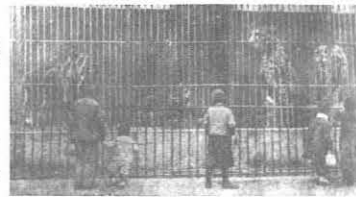
復興期 1950-1960【昭和25年-昭和35年】 戦後の復興とゾウの到着

動物園らしさが戻ってきたのは、ゾウが来園した時です。食糧不足が解消されるのに伴い、動物を集める努力が始まりました。とはいっても海外から動物を購入できるわけでもなく、近郊の農家からウサギを買収したり、捕獲されたイノシシを譲り受けたり、野鳥を捕獲したりと、まさに自己調達でした。これは日本の動物園はどこも同じ状況でしたが、ただ名古屋の東山動物園だけはゾウが2頭健在でした。ゾウ・春子の到着を歓迎する沿道の人。そのため東京や大阪、遠く九州や北海道からもゾウを見たい子ども達が特別列車で名古屋へ向かうというゾウブームが起こりました。



ゾウ・春子の到着を歓迎する沿道の人

天王寺動物園に春子が来



▲昭和26年、ライオンが天王寺に戻り、動物園らしい活気がよみがえって来ました。▼戦後のスーパースターチンパンジーのシュジーで、百貨店で婦人服のデザインを見ているようです

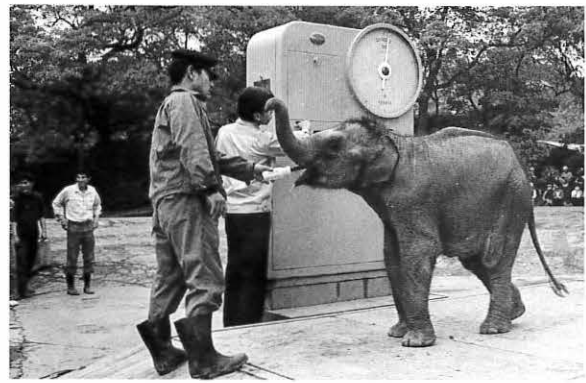
子ども達の熱意には想像を超えるものがうかがわれます。インド政府から1949年に東京にゾウが贈られましたが、大阪にもゾウが欲しいという子どもたちの熱情に、1950年、大阪市に在住していた貿易商がタイで入手したゾウを寄贈。このゾウが今も健在な春子で、これは戦後初めての外国からの動物でした。ちなみに春子が船で大阪港に到着した当時は、岸壁から動物園に至る道筋に歓迎の市民が溢れ、市電もストップするありさまでした。



ゾウの来園を契機として、1951年にはチンパンジー、ライオン、トラなどが来園し、その後もコンドルやホッキョクグマ、キリンなどがお目見えし、再び戦前のような活況を呈しはじめます。平和が動物園を蘇らしたのです。

成長期 1961-1969【昭和36年-昭和44年】 近代的動物園の建設

次々と新しい動物が入ってくるにもかかわらず施設は戦前のままだったこともあって、1961年から動物園改造 9カ年計画が実施されました。これは従来の展示方式の檻を取り払い、入園者と動物の間を空堀や水堀で仕切る無柵放養式の展示に変えたもので、ライオン・トラ舎やクマ舎、類人猿舎、カモシカ園などがこの手法で建設されました。檻の鉄格子がない



1951年に始まったゾウの体重測定は、毎年(こどもの日)に行われました。1984年より中止

ため見やすく、また居住空間の広がったおかげで、動物もゆったりとして見えました。さらにそれまで雑然と配置されていた動物を、この時に初めて分類学的展示手法を取り入れて展示の再編を行いました。これは近縁の動物を並べて展示することで、その形態の違いを比べてもらおうというものです。クマ類、イヌ類、サル類、キジ類、ツル類などは1つの動物舎に連続して並べられて展示されました。この9カ年計画で新設された動物舎は32にも及ぶもので、まさに建設ラッシュの時代でもありました。

躍動期 1970-1988【昭和45年-昭和63年】 活発化する国際交流と分類学的展示の工夫

戦前には海外との親善動物交換は 3件しかありませんでしたが、1963年に韓国のソウル動物園と動物交換を実施以降、国際交流は活発化し、特に1970年に大阪で開催された万国博覧会では、日本初渡来のキーウィをはじめインドゾウなど8種類の動物が親善大使として7つの国々から贈られてきました。これを契機に1974年には日本と中国との国交回復を記念して上海動物園や北京動物園と動物交流が行われました。特に大阪市と上海市が友好都市提携を結んだこともあって、上海動物園とはこれ以降、毎年動物交流を行ってきています。その他、姉妹都市であるサンフランシスコ、サンパウロ、メルボルンの各動物園や米国(サンディゴ、シカゴ・リンカーンパーク)、ビルマ(ラングーン)、バングラディッシュ(ダッカ)、ニュージ



メルボルン動物園より贈られたコアラ



1982年に贈られたキーウィ

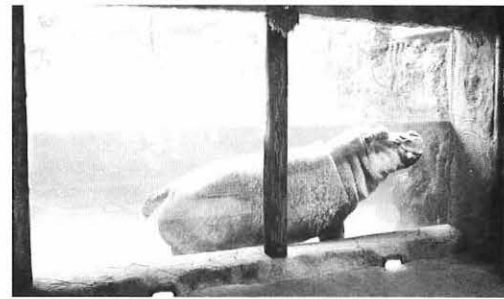
ランド(オトロハンガ)、オーストラリア(タスマニア)などの動物等と活発な動物交流が行われました。

9カ年計画での動物舎が老朽化してきたのに伴い、建替えが順次始まりました。1978年の小鳥の家新設を皮切りに、希少種コウノトリの繁殖を目指したコウノトリ舎(1981年)、猛禽舎(1982年)、昼夜を人工的に逆転させた夜行性動物舎(1985年)、系統分類学的展示を目指したサル・ヒヒ舎(1986年)、水鳥類が自由に飛び回れる国内最大級のバードケージ・鳥の楽園(1987年)、ガラス越しに動物を展示したヤマネコ舎(1986年)、ヒョウ舎(1987年)などが建設されました。これらの動物舎は飼育管理に携わるスタッフの意見や工夫を積極的に取り入れ、見やすく、管理しやすく、そして動物自身も快適に暮らせることを念頭において設計された施設でした。

醸成期 1989-2000【平成元年-平成12年】 ZOO21計画のスタート

1961年からの9カ年計画は無柵放養式を中心とした系統分類学的な展示への整備でしたが、自然保護や環境問題への関心が高まる中で、動物にも快適で、入園者にも自然に対する認識を深めてもらえる新しい動物舎作りや展示の工夫が要求されるようになってきました。この新しい展示手法は生態的展示と言われるもので、動物の生息地の環境を再現し、動物のみならず植物も含めて自然な姿を展示していこうという試みです。折から天王寺動物園では21世紀を視野に入れた基本構想を1991年に作成した時期であり、この将来構想を基に生態的展示を基本理念としたZOO21基本計画を1995年に策定したのです。この事業の目指すものは次のとおりです。①動物園全体に自然を再現し、自然を満喫できる貴重な緑のオアシスとして市民に憩いと潤いを提供する。②動物の生息環境を再現した展示手法により自然、環境等認識と教育効果を高める。③絶滅に瀕する希少野生動物を保護するとともに繁殖研究を進め、飼育下での保護増殖を図る。

1995年に開館した爬虫類生態館はZOO21計画の第



1997年にオープンしたカバ舎では現在3頭のカバが生活しています。

一弾を飾るもので、動物の生息地を本物の植物や擬岩、擬木で再現し、従来の動物舎とは異なった素晴らしいものであると市民の人たちを始め、多くの人から高い評価を得ました。これに続いて1997年にオープンしたカバ舎はカバの生息地を再現するとともに、日本で初めて水中を歩くカバをガラス越しに観察できる画期的なものでした。1998年にはサイ舎、2000年にはアフリカ・サバンナ草食動物ゾーンが完成し、生態的展示手法を取り入れた動物園整備は着々と進められています。新しい世紀に入ってもアジアの森(ゾウ舎)などZOO21計画の推進が予定されています。

種保存のための国際協力

生息地の環境悪化に伴い、動物によっては絶滅あるいは絶滅の危機に瀕している現状から、希少動物の繁殖に動物園が中心となって取り組むことが使命となってきました。特に1つの動物園だけで繁殖体制を確立、維持していくことは困難なことから、動物園間での交流、協力体制、組織整備が必要となっています。地球規模での活動の重要性を認識し、天王寺動物園では国内はもとより海外の関係機関とも密接に連携をとり、種保存活動に積極的に参加しています。



シシオザル

日本動物園水族館協会の種保存委員会では、飼育下での保護増殖を必要とする希少動物を血統登録管理しています。天王寺動物園は其中でもシシオザル、ドリル、希少クマ類(メガネグマ、マレーグマ、ナマケグマなど)、ヨウスコウワニの血統登録の担当園をしており、日本の繁殖計画の策定に責任を担っています。さらにナベヅルについては国際血統登録の担当園として国際的な登録管理に携わっています。1986年から担当しているシシオザルについては国内だけでなく国際的な繁殖計画にも参画し、1990年から1999年の間に米国の5カ所の動物園からの支援のもとで国内でのシシオザルの近親繁殖防止、繁殖向上に貢献しました。またドリルについても国内での繁殖の行き詰まりを打開するためヨーロッパの繁殖計画と連携を取り、1991年にドイツのウィルヘルム動物園から繁殖を目的とした貸借契約(フリーディングローン)でオス1頭を借り受け、2頭の繁殖に成功しました。

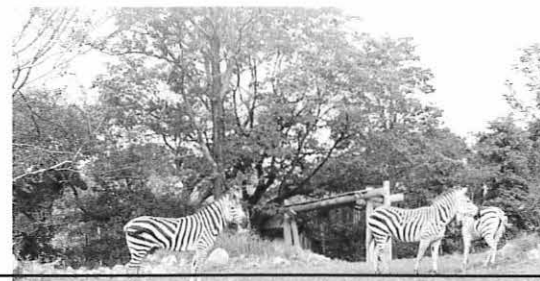
繁殖計画に沿った国際協力

- ★世界の動物園から天王寺動物園へ
 - メガネグマ ドイツ・ライプツィヒ動物園(1992年)
 - 英国・ベルファスト動物園(1995年)
 - ソデグロツル ドイツ・フォーゲルパーク(1993年)
 - ヨウスコウワニ 上海動物園(1995年)
 - マレーグマ シンガポール動物園(1995年)
- ★天王寺動物園から世界の動物園へ
 - タンチョウ シンガポール動物園(1991年)
 - ソ運(当時)・レニングラード動物園(1991年)
 - ドイツ・フォーゲルパーク(1992年)
 - 英国・ウィップスネード動物園(1992年)
 - フランス・フォンテン動物園(1992年)
 - アムールトラ 中国・黒竜江省 中国希少種科繁殖センター(1992年)
 - フアンゾルトン 英国・ベルファスト動物園(1994年)
 - クロサイ 米国・コールドウェル動物園(1997年)

1980年代まではどちらかといえば国、あるいは都市同士の友好、親善を記念した動物交換でしたが、近年は種保存を目的とした国際的な繁殖計画に沿った動物交流が主流になってきています。上表の通り天王寺動物園では国外から動物を提供していただく一方、他園への贈与、貸し出しなど、繁殖のための国際協力を活発に行っています。

--おわりに--

この85年間に天王寺動物園を訪れた方は1億人を越えています。これだけ多くの方々へ長年に渡って親しまれてきた施設は大阪はもちろん、日本全国でも数少ないことでしょう。今世紀は市民の方々へ動物を通じての憩いと安らぎ、感動や学習の場として利用されてきました。また、野生動物を保護する動物園の役割も理解されだしました。しかし新世紀は人類最大の課題が地球環境問題と言われているだけに、市民の方々が何を求め、期待しているのかを把握しながら、動物園もその環境学習の場として一翼を担っていくことが必要でしょう。天王寺動物園はその役割を示す施設であると確信しています。(財)大阪市公園協会:宮下 実



2000年8月にオープンしたアフリカ・サバンナ区草食動物ゾーン

毎年、天王寺公園の温室では、新年の1月になると、春の七草を展示しています。一人でも多くの人たちに春の七草を知っていただければとの思いから展示し続けているのですが、それでは、春の七草について紹介させていただきます。

春の七草

七草はもともとは中国の風習ですが、今日いわれる七種類の植物に定まったのは、室町時代の頃のように、四辻左大臣という人の歌に草の名が詠みこまれたのが始まりです。

芹^{せり}なずな^{おんかたち}御形^{おんかたち}はこべら^{おんかたち}の座^{おんかたち}すずな^{おんかたち}すずしろ^{おんかたち}これぞ七草

との、いい伝説があり、正月七日にこれら七種の若菜をまな板でぎざみ、かゆに入れて食べると万病を防ぐといわれ、古くから年中行事のひとつとされてきました。その若菜もやがて茎が伸び、春または夏になると花を咲かせ

- まず1つ目のセリは、多年草で水田や溝などの湿地に生え、地下茎の節から新芽を出して繁殖、茎は高さ20~80cmになり、7~8月に白い極小の花を傘状にたくさんつけます。
- 2つ目のナズナは、実を三味線のばちに見立てペンペン草とも呼ばれます。
- 3つ目のゴギョウは、草餅を作るのに使うので、モチグサと呼ぶ地方もあります。
- 4つ目のハコベラは、ナデシコ科の越年草。長さ10~30cmになる茎も小さな葉も柔らかく、お浸しや汁の具にも最適です。花期は3~9月で白い小さな5弁の花が次々に咲きます。
- 5つ目、ホトケノザはキク科の越年草タンポポに似た小形の野草。花茎は高さ10cmほどになり、3~5月に黄色の花をつけます。
- 6つ目のスズナは野菜のカブのことでカブラともいいます。アブラナ科の一年草または二年草で、ふつう白色、大きいものは直径20cmになり、春になると茎が伸び、鮮黄色で十字形の小花を総^{ふさ}状に咲かせます。
- 最後のスズシロは、ダイコンのことで、アブラナ科の越年草。花は白が基本色だが紫をおびることもあり、春に開花します。

アッコ日記 No.2

<p>1 アッコちゃん七草をさがす レッツ、ゴー!</p> <p>今日は1月7日 七草が食べよう アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>	<p>2 アッコちゃんまがは畑へ行く。</p> <p>スズシロ アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>	<p>3 アッコちゃんまだ畑にいる。</p> <p>アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>
<p>4 アッコちゃん田へ行く。</p> <p>アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>	<p>5 アッコちゃんまたまた畑へ行く。</p> <p>アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>	<p>6 アッコちゃん七草が畑を食べる。</p> <p>アッコちゃん 「アッコちゃん?」</p>

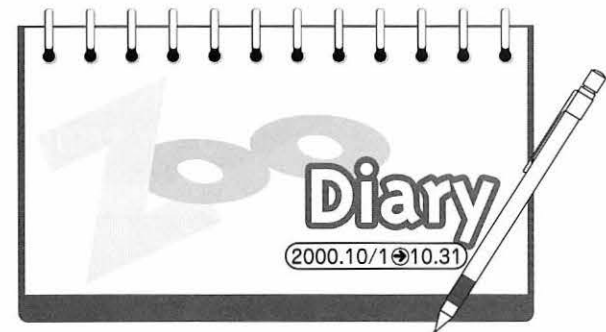
管理課：森岡伸晃



- 10/1 ●中国上海市の緑化技術交流団7名が来園しました。
- 10/3 ●アフリカサバンナ区草食動物ゾーンの放飼場で、ダチョウの仮柵を取り外し、エランド、シマウマと同居させました。
- 10/6 ●トウハイイロリス2頭が神戸市立王子動物園から贈られてきました。17日にも1頭が到着し、合計で3頭が来園しました。
- ワシントン条約に違反して国内に持ち込まれ税関に摘発されたホウシャガメ2頭を保護収容しました。
- 10/8 ●“園長の動物園講座-エキゾチックアニマルとズーノーシス-”を開催しました。
- 10/9 ●天王寺公園・天王寺動物園写真コンクール表彰式を開催しました。↓



- 「秋の動物と花のフェスティバル2000」がスタートしました。11月3日までの期間に、「うんちはいろいろ」展、写真コンクール作品展、トラの企画展、動物相談、ステージショーなど様々なイベントが催されました。
- 10/14 ●当園飼育係によるお話「ライオンさんの一日」を開催しました。
- 10/15 ●当園獣医師によるお話「有袋類のお話」を開催しました。
- 10/16 ●カリフォルニアアシカのオス1頭を大阪海遊館から繁殖のために借り受けました。まだ若く、将来が楽しみです。



- マガモ3羽が富山市ファミリーパークより、ワニガメのメス1頭がみさき公園より贈られてきました。ワニガメは、当園のオスとペアを組んでくれることを期待しています。
- ミズオトカゲ1頭とアオハリトカゲ5頭を仙台市八木山動物公園に、アオウミガメのオス1頭を大阪海遊館に贈りました。
- 10/19 ●爬虫類生態館でヒョウモンガメが3頭ふ化しました。
- 10/22 ●第55回国際動物園長連盟会議出席のため、当園園長が27日までカリフォルニア州・パームスプリングスを訪れました。



右から
動物園研究家・若生謙二氏、ランドスケープアーキテクトのジョン・コー氏、オハイオ州トレド動物園長・ウィリアム・デンラー氏と天王寺動物園園長 (LA動物園にて)

- 10/24 ●カリフォルニアアシカの検疫が終了したので、他の個体と同居させ展示しました。
- トウハイイロリスの検疫が終了したので展示しました。
- 10/28 ●当園飼育係によるお話「クマさんの一日」を開催しました。
- 10/29 ●平成12年度動物園ボランティア入会説明会を開催しました。
- 10/30 ●コアラのメスに膀胱結石が見つかったので、手術を行いました。

お知らせ

- 動物園の催物
 - ★「動物君たちの一日」は朝の展示から夕方の収容まで、ふだん皆様が見られない動物たちの様子をビデオで見ながら担当キーパーがくわしくお話をさせていただきます。1月13日(土) サイさんの一日・1月27日(土) 動物君たちのえさ
 - ★「日本語のビデオマンガの放映」1月6日(土)・1月20日(土)
 - ★「干支のお話」1月7日(日)
 - ★「獣医さんのお話」1月21日(日)
- いずれも ●場 所 天王寺動物園園内レクチャールーム 先着60名様 入場無料
●時 間 午後1時30分~1時間程度
- 天王寺動物園・天王寺公園は12月29日(金)~1月1日(月)は休園となります。新年は1月2日(火)より平常どおり開園します。
 - 天王寺動物園特製カレンダープレゼント1月2日(火)・3日(水) 天王寺公園・動物園あわせて、両日とも先着500名
 - もちつき大会1月3日(水) 動物園内 白雪姫時計前



愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店



子どものずかんシリーズ

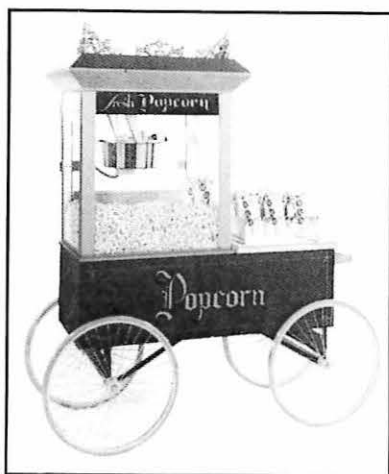
① どうぶつえん

26.5×21cm 各巻定価 本体1,000円(税別)
全国学校図書館協議会選定

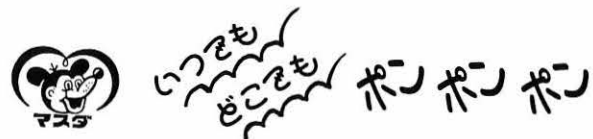
動物園にはいろんな動物を見ることができます。
ただ、単に見るだけではなく、その動物の特長や生態、
何を食べているか、またその仲間たちはどんなものか
があるかがこの本でわかります。さあ、この本を持って
もう一度動物園へいってみよう。

お求めは、お近くの書店で。

☆ **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151代表



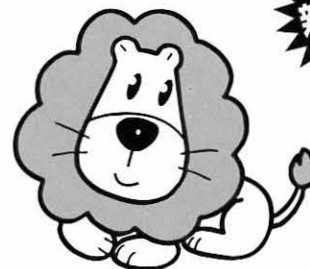
マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856
(株)増田食品 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06)6865-0165

FUJIFILM
I&I - Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも運動、見たままのフレームでパチリ。

カメラの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部
狼と犬と猫の生態を研究し、動物文
学をはじめて世に紹介した平岩米吉
の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を
娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわ
せ、動物画家・大崎善司、日本好き
のスター博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
●2刷出来 2,500円+税

犬の生態
●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理
●4刷 2,000円+税

私の犬
2,200円+税

猫の歴史と奇話
2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ●限定300部(分売不可)

南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々
の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

④ **築地書館** 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address= JDH07647@niftyserve.or.jp

貸出用「楽しい天王寺動物園」
ビデオ 19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本
入園の記念・手引に……

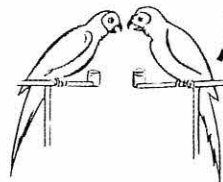


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



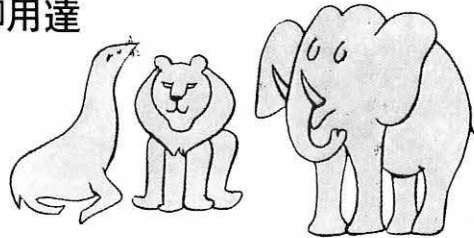
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ 指定会社)
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

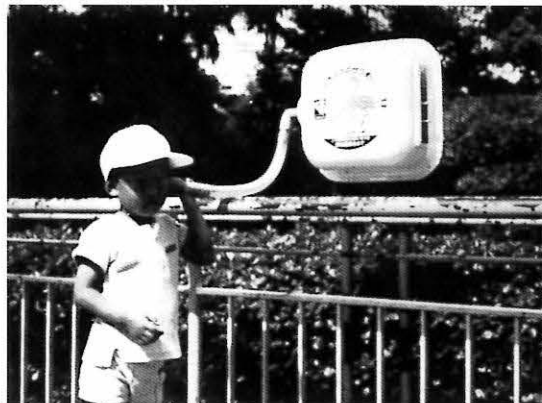


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話06-6762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL06-6771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



天王寺動物園 MAP
大阪市天王寺区茶臼山町1-108 TEL.06-6771-8401

天王寺動物園事務所 市立美術館 至天王寺駅 天王寺公園 至天王寺駅 至新今宮駅

北園 阪神高速14号松原線 南園

入園料 動物園/大人500円 公園/大人150円 中学生以下、65歳以上無料
開園時間 午前9時30分~午後5時(入園は4時まで) 休園日 毎週月曜日(月曜が休日に当たる場合は翌日休園)



中央デッキ下

一日、愉快地 たのしめる

◎園内2カ所(中央デッキ下・南園高架下)に、各種のりもの、があります。



南園高架下

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 4397-0100 (代)

編集委員

中尾啓一/中川哲男/石井 等/藤田四郎/沖田紀行/山崎道正/長瀬健二郎/谷森 進/橋本泰幸/森本委利/高橋雅之/市川久雄
竹田正人/高見一利/西 康弘/田中 龍治/満 勇二/松岡秀和/坂本 全/森岡伸晃/野口秀高/大野尊信/早川 篤/西村慶太/油家謙二